



新年のご挨拶



院長 松永 信



明けましておめでとうございます。

新たな一年が始まりましたが、昨年は皆様方に変にお世話になりました。

今年は、十干十二支で、甲辰（きのえたつ）にあたります。

「甲」は物事に対して耐え忍ぶ状態をあらわす文字で、生命や物事の始まり、成長も意味します。「辰」は「振るう」という文字に由来し、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表します。

この三年間猛威を振るった新型コロナ感染も、昨年の5月には感染症分類が2類相当から5類に変更となりました。感染率は依然として高いものの重症度は低下し、今年4月からは、医療供給体制もコロナ以前に戻ります。

このコロナ感染は、人の働き方や移動の仕方等、私たちの基本的な生活に大きな変化をもたらしましたが、医療界でも入院制限や面会制限等をはじめ、患者さんだけでなく、私たち医療従事者にとっても被害と教訓をもたらしました。

今年は六年に1度やってくる、医療保険と介護保険の同時改定が4月に行われ、医療内容や経営でさらに難しい対応を求められることが予想されます。また来年は「医療の2025年問題」と言われる、入院ベッド削減を伴う地域医療計画が決められる予定です。

今年は、干支のキーワードである変革や激動の年になることが予測されますが、この一年を当院の医療理念と中長期計画に基づいて、より一層精進してまいりますので、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



～変化挑戦の年です～

看護部長 西島 陽子



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、医療療養病棟、介護医療院にてコロナ感染が発生し大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。今後より一層の感染対策を職員一同行ってまいります。

今年は、新型コロナ感染症が2類から5類相当になり迎えた新たな年です。

しかしながら、コロナ感染は若干弱まりましたが、インフルエンザが猛威を振るい、気候変動のせいか体調を崩す状態が継続し、なかなか健康的に新年を迎えられない感じがします。感染管理や面会もまだまだ以前のようにならず、新たな対応になるのではないかと思います。その中で、患者様の療養生活に携わっている私たちとご家族様のコミュニケーション不足を感じています。より丁寧な説明、優しい対応を心がけていきたいと思ひます。

2024年の干支は「甲辰」です。「成功という芽が成長して行き、姿を整えて行く」という縁起の良い年で、新たなスタートを切る時に用いられます。

変化を受け止め、いま最善の看護やケアの提供を職員一丸となり努めたいと思ひます。



感染症BCP訓練



感染管理室
栄養科

令和5年7月5日（水）に当院で感染症BCP訓練（参加者32名）を実施しました。

BCPとはBusiness Continuity Planの頭文字をとった略称で「事業継続計画」と訳されます。

今回はノロウイルスが栄養科で発生したという想定で、他部署の職員が非常食を使って患者様に食事を提供するための実働訓練としました。実際に非常食を容器に盛り付けたり、食事の運搬ルートなどの確認を行いました。盛り付け例の写真を見ながらの作業でしたが、「分量に誤差が出てしまう」「配膳しにくい」など、実際にやってみることで色々な問題点が明らかになりました。感染症発生時に慌てないため、訓練を通じて作業手順の見直しも大切であると強く感じました。

今後も患者様に、安心して療養生活を送っていただけるよう危機管理に努めていきたいと思ひます。



通所リハビリテーションセンターの 機械浴槽を交換しました

23年の間、使用していた機械浴槽を交換しました。以前の機器に比べ小型化していますが180cm程度の身長の方もゆとりをもって入浴出来る構造です。多くの方の支援に役立てていきたいと思ひます。

